

腹腔鏡下リンパ節郭清 に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 29 年 8 月 9 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

腎盂尿管癌に対する腹腔鏡下手術時に同時施行する腹腔鏡下リンパ節郭清の安全性、有用性に関する後ろ向き調査

〔研究目的〕

腎盂癌、尿管癌に対して腹腔鏡手術を行う際に、リンパ節摘除を同時に行っていることについての安全性、有用性の評価を行います。

〔研究意義〕

腎盂癌、尿管癌(上部尿路癌)の方に根治手術を行う際に、リンパ節摘除を行うことが近年ガイドライン上推奨されております。しかし一方で主に上部尿路癌の手術を腹腔鏡で行うようになった現在、リンパ摘除は必ずしも行われてはいないのが現状です。これは腹腔鏡下にリンパ節摘除を行うことがやや複雑な術式であったことと、その範囲が厳密に定義されていなかったためです。しかし最近はその範囲は徐々に明らかにされてきております。

またガイドライン上、上部尿路癌の進行症例に関しての腹腔鏡手術は必ずしも推奨はされておられません。これは進行上部尿路癌に対する腹腔鏡手術の成績が、開腹手術と比較して劣っているとの報告があったためです。その理由はおもにリンパ節摘除がされていないためと考えられております。

以前より私たちは切除範囲を定めたリンパ節郭清を腹腔鏡下に行っており、これらの安全性、妥当性、予後に与える影響を評価することにより、腹腔鏡下手術の適応につき再検証でき、それらが今後の医療の発展の一助になることを期待し、本研究は企画されております。

〔対象・研究方法〕

1997 年から 2014 年までに臨床的に腎盂尿管癌と診断され、外科治療を行った症例の蓄積されたデータの解析をします(後ろ向き研究)。

〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター、千葉大学

〔個人情報の取り扱い〕

利用する情報からはお名前、住所などの患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、資料は泌尿器科研究室にて厳重に保管し、研究期間終了後、規則に則って廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科 講師 荒木千裕

研究分担者: 帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科 教授 納谷幸男、助教 巢山貴仁

住所: TEL:0436-62-1211 (代表) [内線 2824]